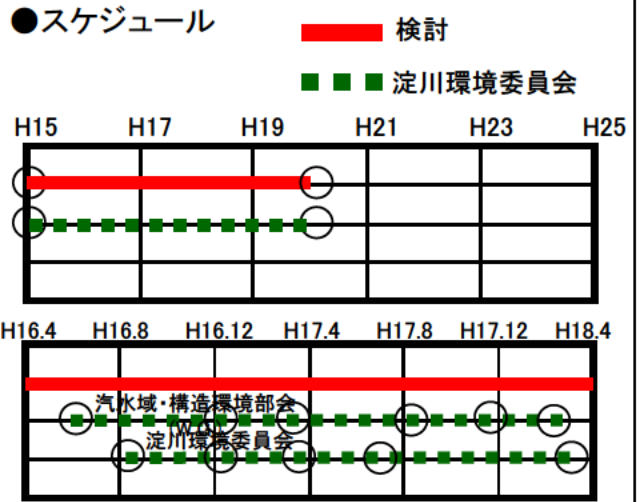


淀川大堰下流

●具体的な整備内容  
 淀川大堰下流の汽水域の生物に配慮した放流量やアユ等の遡上を促す放流量及び有効な堰の操作方式等について検討する。

淀川大堰(下流)

●検討内容  
 ・対象エリア、淀川大堰下流汽水域の環境調査(魚介・底生動物等)  
 ・指標生物の選定及び経年調査



●検討事項

対策(案)

●汽水域の生物に配慮した放流量の検討

- ・早春から初夏にかけてのアユ遡上の呼び水としての放流
- ・攪乱や水位変動による水辺の生物生息生育環境の保全・改善

●対策(案)イメージ



整備効果

1. 事業効果

淀川大堰は河口から10kmに位置し、魚道機能の良否が通し回遊魚の遡上・降下を左右し、淀川本川及び木津川、宇治川、桂川に影響を与えるため、その運用見直しによる改善効果は広範囲に及ぶ。アユの遡上を促す放流や、堰の操作により水位変動や攪乱の増大を図ることにより、水生動植物の生態環境が改善される。

提案理由

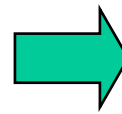
1. 箇所決定理由

淀川及び桂川、宇治川、木津川にとって淀川大堰の役割は大きく、通し回遊を行う魚類・甲殻類等の遡上の可否などは水系全体に及ぶものである。また、堰の運用操作はそれより上流約16kmにわたる湛水域において影響があり、攪乱の減少や水位変動の減少を改善することによるその効果は、広範囲に及ぶものである。従って、早急な実施に向けて検討を行う。

2. 検討手法

対象エリアの環境調査  
(魚介類・底生生物等)

- ・現状の汽水域生物等実態把握
- ・対策方針案の検討
- ・治水・利水に関する影響検討
- ・目標の設定
- ・指標生物等設定
- ・対策後の生物回復等状況予測



対策方針の決定

委員会等からの意見

ダム・堰の適正な運用(淀川大堰)は、早期に検討し、実施が必要である。

「生物に配慮した放流量の検討」は、汽水域の水質・底質改善に役立ち、遡上魚にとっては「呼び水」として重要な役割を果たす。検討事項に、新淀川の水量(放流量)増加と側流式魚道の追加が望まれる。

進捗状況報告

これまで淀川大堰下流汽水域での調査は、十三地区や中津地区などが主で、下流汽水域全域を調査したものはなかった。

その為平成16年度から淀川大堰下流汽水域全域について、水際の生物調査、低水路内の貝類等調査、定性的な生物調査等を実施している。平成17年度で2年目となり、今現在は2ヶ年分のデータが蓄積されている。

進捗状況報告

付着生物、底生生物調査のコードラード位置等

